

令和4年版 情報通信白書の公表に当たって



総務大臣

金子恭之

昭和48年に通信白書が初めて刊行されてから、今回でちょうど50回目の刊行となります。

この半世紀を振り返ると、市場の自由化を通じた競争の進展や様々な技術革新の実現などにより、ICT分野は飛躍的な発展を遂げて参りました。今や情報通信の基盤の上で、あらゆる人やモノがいつでもどこでも自由につながることができ、そこから新たなサービス、イノベーションが次々と創出されています。

そこで、今回の白書では、「情報通信白書刊行から50年～ICTとデジタル経済の変遷～」を特集テーマとして取り上げ、この50年間のICT分野の制度、サービス、技術等の変遷を振り返るとともに、今後の日本社会でICTが果たす役割を展望しています。

また、今回の白書は、ICT分野の最新の動向を分かりやすく俯瞰できるよう、ポイントを絞った簡潔な記述にするとともに、QRコードなどを活用して掲載データの充実を図っております。本白書がICT分野に関する皆様の理解を深める一助となり、情報通信分野の一層の発展に寄与することを期待しています。

近年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うデジタル化の進展等、情報通信分野の重要性は益々高まっています。そのような中で、誰もが取り残されることなく、情報通信がもたらす恩恵を安心して享受することのできる環境を整備することが非常に重要であり、「デジタル田園都市国家構想」の実現は急務となっています。総務省では、社会全体のデジタル変革の加速、ICTを活用した地方活性化や防災・減災・国土強靱化などを中心に、引き続き全力で取り組んで参ります。

情報通信行政への皆様のご理解・ご協力に改めて感謝を申し上げますとともに、情報通信を核とした次の50年の更なる発展に思いを馳せ、皆様とともに歩みを進めて参りたいと思います。

令和4年7月